



松野 俊次(まつの としつぐ)

特定非営利活動法人
発達を支援する会じゃんぐるじむ 理事長
こども発達サポートセンター
「じゃんぽっぷ」相談支援専門員

Toshitsugu Matsuno

1954年愛知県生まれ。早稲田大学入学と同時に東京YMCAのボランティア活動を開始。そこでの障がい児との出会いから大学卒業後に理学療法士の道に。子ども達への支援を生涯の仕事と決め、愛知県立第二青い鳥学園・豊田市こども発達センター・岡崎市こども発達センターで39年間勤務した後、現職。障がいのある子どもとご家族への支援に貢献すべく、セカンドキャリアに進む。

生涯 現役

障がいのある子どもと ご家族の支援を一生の仕事に

生涯現役第15回は、ボランティア活動で障がい児と出会ったことから理学療法士を志し、現在も子どもとご家族の地域での暮らしを支え続ける愛知県理学療法士協会所属の松野俊次先生のメッセージをお届けします。

もともと子どもが好きだったこともあり、大学入学と同時にYMCAの学生ボランティアをはじめた。子ども達と一緒に公園に行ったり、夏にはキャンプ、冬にはスキーキャンプにも行った。手足の不自由な子どものキャンプに参加し、初めて車椅子に乗った脳性まひの子ども達に出会った。東京教育大桐が丘養護学校(当時)の高等部2年生だったM君との出会いは特に衝撃的で、私の人生を変えた。キャンプスタッフとして参加していた医者話から理学療法士という職業を知り、大学卒業後に養成校に入学、理学療法士となった。

障がいのある子どもへの支援をしたいという思いから理学療法士になったので、最初から子どもの分野に行こうと決めていた。実家の近くに肢体不自由児施設である「愛知県立第二青い鳥学園」があり、就職。当時は脳性まひ等中枢神経疾患に対する治療法として、神経生理学的アプローチが盛んに行われていた頃で、私もそれを学び臨床に取り入れていた。また、在宅で青い鳥学園に通う通園部の担当、愛知県が実施していた地域の通園施設等への巡回療育にも参加し、家庭で家族と共に、地域で暮らす障がい児への支援の大切さを学ばせてもらった。

38歳の頃に、青い鳥学園の圏域であった豊田市で総合通園センターを作る構想が持ち上がった。理念は、圏域に住む全ての障がいのある子ども達の在宅での生活を保健・医療・福祉・教育が連携して支援すること。幸運にもその企画から関わらせてもらうこととなり、建物の設計、建設、組織作り、人集め、具体的な運営、全てのことに携わった。建物をつくり、備品を入れ、子どもとご家族への支援をさせていただいた豊田市こども発達センターで得難い経験を沢山させていただき、それらの経験から、理学療法士としての視点だけで障がい児をとらえるのではなく、より広い視点から地域で暮らす障がい児とそのご家族のことがよく理解できるようになったと思っている。

今の所属であるこども発達サポートセンターじゃんぽっぷでは、相談支援専門員として相談事業を主に担当している。理学療法士としての専門性とこれまでの経験を活かし、生活をマネジメントする観点から、地域で暮らす障がいのある子どもとご家族への支援を行っている。これからも子どもとご家族に寄り添いながら、地域での暮らしを支援できたらと思っている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp